

茨城県民間保育協議会青年部

いしずえ

礎

■ 青年部活動報告 ■

青年部役員会及び全体会報告

事務局長 萱場 祐友 (ミーム保育園)

新年を迎えた1月27日役員会並びに全体会が日の出保育園塙先生のお膝元朝来の地にて行われました。

3月11日の震災から約10か月。震災による各園の被災状況を青年部広報誌「礎」の号外でもお伝えしてきましたが、液状化の被害が特にひどい潮来市では未だに復旧作業を終えていない箇所が数多く見られました。あらためて震災に対し、忘れてはならないこと、しかし同時に新たな気持ちで1年を迎えようと強く感じました。

全体会においては各部会、各委員会の報告と抱負など藤崎部長を中心に協議し、新体制の統率を図りました。抱負では、これまでの活動を継承しつつ、今までにない取り組みを企画する委員会もあり、様々な形で活動する青年部らしい協議となりました。

全体会では、各地域から総勢26名の部員と新たな青年部員として2名を迎え、部長の思いと各委員会の方向性を皆に伝えました。その後、初の試みである4つの委員会で合同委員会を開催し、それぞれの委員会でどのように会を進めているのか互いに確認し、新たな部員も各委員会の様子を見学することが出来ました。今後も各委員会が協司できるよう定期的実施したいと考えております。



☆ トピックス ☆

- 青年部活動報告
 - ・ 民間保育協議会青年部役員会、全体会報告
 - ・ 民間保育協議会青年部研修会報告
- 日本保育協会青年部報告
- 全国私立保育園連盟青年会議報告
- 各委員会から1年間の感想

エコ活動の一環として、両面印刷、NO ホチキスにて配布いたします。御了承下さい。



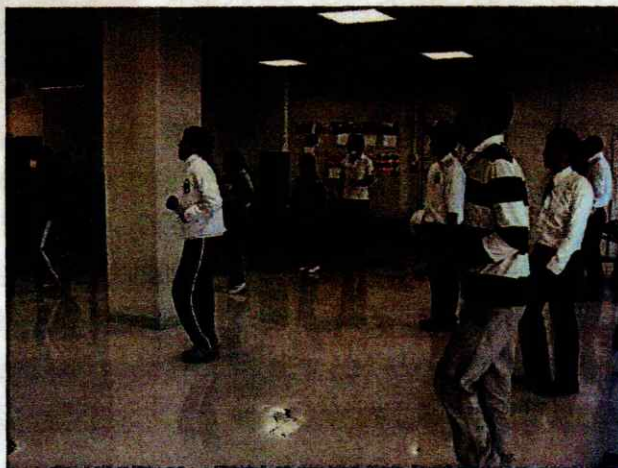
2月4日石岡市民会館にて研修会を開催しました。平多公了氏を講師とし参加者43名全員寒さにも負けず元気いっぱい体操を行いました。

やっぱり体を動かすって気持ちがいいものですね、参加した方はモチベーションも上がり、心地よい疲れとすばらしい笑顔で終了することができ、懇親会では、保育士同士の意見交換が活発に行われ、各自よい刺激を受けることが出来たと思います。



参加者の感想です。

青年部研修委員会主催の研修会に参加させていただきました。「室内で元気な体を作ろう」をテーマに、体全体を使った体操やお友達と楽しくできる手あそび、親子のスキンシップを兼ねた手あそびなど幾つか指導していただきました。私はこのような研修会に参加させていただいたのが初めてだったので、少々不安を感じながらの参加でしたが、あまりの楽しさに不安を忘れ童心にかえり楽しい時間を過ごす事ができました。今回の研修を通して、子ども達に思いきり体を動かして味わえる充実感を教えることができるということと、スキンシップを取ることによって、子ども達に愛情や信頼の気持ちを伝え、それが情緒の安定につながるということを実感することができました。この経験を活かし、子どもとの関わりを考えて魅力ある環境を作り、日々の保育の向上につなげていけるよう努力をしたいと思います。



小堀 和枝（きさき保育園）

※研修会と同時開催いたしました『H-1 グランプリ』につきましては別紙にて同封しております。ぜひ、職員の皆様にも回覧頂き少しでも保育の向上につながれば幸いと存じます。

■日本保育協会青年部報告■

後藤 貴哉（大宮聖慈保育園）

前日の大雪により関東一円に寒さが残る3月1日に、東京都青学会館アイビーホールにて青年部セミナー『次代への扉』が開催されました。

現在、目下に迫った幼保一体化により保育界は大きな岐路に立たされている状況です。今回のセミナーでも、中心となるテーマは『幼保一体化について』でした。

特に、目玉となったのは、講演2「新システムの検証と課題」において、内閣府参事官 藤原 朋子氏、厚生労働省 幼保連携推進室室長 北山 浩士氏、株式会社JPホールディングス代表取締役 山口 洋氏と、株式会社ベネッセスタイルケア代表取締役 佐久間 貴子氏をお迎えしてのパネルディスカッションでした。

株式配当や、利益優先など、色々と偏見の目で見られる事も多い企業立の保育園ではあるが、子どもたちの最善の利益の為に動いているという意識は同じであり、ワーキングチームなどにも参加し、保育界においても新しい保育の在り方として注目されている企業立保育園の2氏から意見をいただくことで、今回の講演は色々と興味深いものになりました。

幼保一体化はもう目前まで迫っており、これからは、どう考えたか、ではなく、どう動くか、と常に危機感を持っていかねばならないと感じました。



【全国私立保育園連盟青年会議京都大会】

副部長 柳澤 克彦 (国分台ふたば保育園)

去る2月16・17日、第32回公益社団法人全国私立保育園連盟青年会議京都大会が行われました。

今回の大会テーマは、「守・破・離」守とは、保育での大切なもの、今日の伝統を知る。破とは、伝統や既存の価値観にとらわれず、新しいスタイルに挑戦する。離とは、より高いステージへと自分を導く。とテーマを掲げ、日本伝統・文化の原点でもある京の都において厳粛かつ盛大に開催されました。



開会式では、金剛能楽堂で金剛流能「高砂」から荘厳な始まりとなりました。文化の香る

町京都、その中でも特に能楽と関わりの深い、かつて室町幕府の「花の御所」の近くに平成15年に開館され、百三十余年の星霜を経た室町の旧金剛能楽堂より、先人の思いが詰まった能舞台をそのまま移築された場所での式となりました。

基調講演では、マスコミでも知られている青山繁晴氏より「子らのためにこそ祖国は甦る」の題目で、壇上から降りながらの熱い講演となり、未曾有の東日本大震災の現場での話や福島原子力発電所の爆発直後の訪問時の話など、自ら現地に足を運び、その都度、自分なりの判断で対応し活躍した、日本のリーダー的存在である氏に感銘いたしました。

分科会では、7分科会の内第3分科会の伝統と改新の調和「株式会社福寿園の福井副社長の講演」に参加してきました。全国でもメジャーな数々のヒット商品を持ち、海外でもシェアを持つ、福寿園の成り立ちと新しい試みに取り組んでいるエネルギッシュな講演でした。最後には、美味しいお茶の淹れ方を伝授していただきました。

今回参加数478名と多くの先生方の参加で、とても盛大に行われました。

閉会式では、次回熊本市大会へ引き継がれ青年会議らしさを見せていただいた大会でした。

【第7回特別セミナー】

去る3月3日東京AP浜松町にて第7回特別セミナーが『保育制度が変わる?! 私たちが考える保育とは』をテーマとして、開催されました。基調講演では、内閣府政策統括官村木厚子氏より、子ども・子育て新システムの情報と前日に閣議決定をされた内容などの資料も配布していただき、とてもホットな内容となりました。

パネルディスカッションでは、NHKの教育番組でもおなじみな大豆生田啓友氏をコーディネーターとし、保育所・幼稚園・企業からそれぞれ先生方をお呼びして行われました。

保育所からは、全国私立保育園連盟保育・子育て総合研究機構 研究企画委員の鳥取県赤碕保育園園長福田泰雅先生、幼稚園からは、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 研究研修委員長の大阪府豊中市あけぼの幼稚園園長安家周一先生、企業からは、JPホールディングス代表取締役の山口洋氏より、さまざま角度からそれぞれの分野ごとの話をされ、これからの保育制度に対しても、いろいろな問題点ややるべき課題点が多くあることを認識させられたセミナーでした。

■各委員会から1年間の感想■

【調査研究委員会】

委員長 森川 道成（四季の杜保育園）

調査研究委員会 23年度の活動としては、「県内保育所における東日本大震災の影響についてのアンケート調査および保育料基準額調査」、「保幼小連携をテーマにした視察研修」をそれぞれ行いました。アンケート調査では、震災の被害状況について詳細に調査を行い、県内5つのエリアに分け分析を行いました。集計等において作業量も多かったのですが、各委員が積極的に参加していただいたことで効率的に作業が進められたのではないかと思います。視察研修では、保育幼稚園課をはじめとする浦安市行政担当者を訪問。保幼小連携に関する浦安市の取り組みについてお話を伺うことができました。教育・保育行政の在り方について地域性（格差）を実感するとともに、接続期の取り組みの難しさや課題について理解することができました。今年度取り組んだ内容をさらに深化させて、24年度の取り組みにつなげていきたいと思ひます。

【研修委員会】

委員長 所 隆一（笠原保育園）

今年度は、東日本大震災の影響が残る中でのスタートとなりました。茨城県内の情報や地震時の体験、今後の対策など貴重な情報交換を行い、助け合いの心、団結し夢に向かう気持ちの大切さを改めて感じながら、委員会活動を行いました。委員会内での意見、「テレビや新聞などの情報ではなく、各地域の現状を正しく理解することが重要ではないか。」「放射能の対策としてなるべく屋外での活動を控える傾向になるのではないか。」「屋外活動が制限される為、子どもたちの体力やストレスが心配である。」などを中心に、6月・8月・10月と委員会を開催し、今年度は震災の混乱時期を避け研修会を2月に開催しました。保育士向けになるべく園全体もしくはクラス単位でも簡単に取り入れることができる体力作りをしよう、年齢別の体操を行う事に決定いたしました。

来年度も皆様の意見を取り入れ、より充実した研修を行いたいと思ひます。

【渉外委員会】

委員長 中山 天公（筑子ファミリア保育園）

部長より「初めての委員会を委員長と白田先生の二人で考えて茨城県の保育園、保育士、なにより子ども達の為に自由に活動してください。」と任せられ、今年度よりスタートした渉外委員会。その期待に答えられるか不安もありましたが、白田先生の存在（サポート）がとても大きく不安から楽しみに変わるまで、そんなに時間はかかりませんでした。保育の質の向上、保育所の情報交換の場の提供、青年部の横の繋がりについてなど目標がありましたが、H-1グランプリを行うことで皆様のご協力のもと、充実した企画になれたような気がします。（※別紙：事業報告H-1グランプリ参照）今年度の渉外委員会を通して、人の繋がり大切さを強く感じた機会になりました。その機会を与えて下さった部長をはじめ、その他にも関わりがあつたたくさんの皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。そして、第2回H-1グランプリ、たくさんの方々のご協力、ご参加よろしくお願ひします！



【 広報委員会 】

委員長 堀川 宗愛（堀川保育園）

今年度1年広報委員会は年3回発行の『礎』のほかに、平成23年3月11日におきた東日本大震災で被災した県内保育園の状況取材し、『液状化』『津波』『各園での除染活動』と3回にわたり号外として発行させて頂きました。

実際にはもっと沢山の園が被災したと思います。そしてまだ、復旧が終わっていない園もあると思います。すべてをとりあげることが出来なかったことをお詫び致します。

来年度も広報委員会では、新しいテーマを掲げ、皆様に読んでいただけるような『礎』を発行していきたいと思っております。

【 事務局 】

事務局長 菅場 祐友（ミーム保育園）

1年が過ぎるのはあっという間。歳をとるたびにそのことを強く感じるのは、1年間という期間を経験することが多くなるのでどうやら仕方がないそうです。皆、1日24時間と決まっているのに感じ方が違うのは面白いものです。

私もこれまで何度も1年間を経験しており、この経験を活かして今年も時間・期間を無駄なく使う予定でしたが公私ともに何だか使いきれない気がいたします。

部長の熱い思いを理解していましたが、それをどう実行するのか決められた時間・期間の中で出来なかったことが個人的に非常に心残りです。しかし、事務局員である経験豊富な逆井先生と河野先生にサポートしていただき、皆様には気付かれずに済んでいたのかも。「人という字は・・・」と、ある先生のお言葉がありますが、支え合っている様に、そして無駄に歳をとらず、その経験を活かしていきたいと感じております。



編集後記

先日、保育園で卒園式を行いました。園児入場の前に、オープニング映像を流し保護者の涙を誘う。今年で映像を使っただけの卒園式は5年目、去年の卒園式ではすでに卒園した先輩保護者から聞いているのか保護者の反応が・・・泣いてはいるが、驚きが少ない。もっと心に残る卒園式にしなくては、と今年度はオープニング映像に加え、エンディングロールを作ってみました。子供たちの一人一人の写真と一緒に家族にあてたメッセージを流しました。園児退場で終わったと思っている保護者にこの映像。驚きと涙、終わったと、保護者に「こんなのするい！終わったと思ってたのに！！」と泣きながら言われました。作ってよかったー、と自己満足。その後の職員会議で「来年はどうしますか？」と聞かれ、自分の浅はかさを知りました。その場の考えで先を考えず仕事を増やしてしまった。増やすことは簡単。でもなくすことは容易ではないということを……。来年どうしよう……。

来年度も皆様に読んで頂けるような『礎』を作って行きたいと思っております。

広報委員 M

〒310-8586 水戸市千波町1918 茨城県民間保育協議会青年部広報委員会発行